

令和4年農林水産省告示第1650号（農薬取締法第四条第一項第五号に掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める件第一号の規定に基づき、同号の農林水産大臣が定める基準を定める件）の一部を改正する件（チアジニル）（案）についての意見・情報の募集について

令和7年12月26日
農林水産省消費・安全局

この度、「令和4年農林水産省告示第1650号（農薬取締法第四条第一項第五号に掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める件第一号の規定に基づき、同号の農林水産大臣が定める基準を定める件）の一部を改正する件（チアジニル）（案）」について、広く国民の皆様から意見・情報を募集いたします。

今後、本案については、提出いただいた意見・情報を考慮した上で、決定することとしております。

記

1 意見公募の趣旨・目的・背景

農薬取締法（昭和23年法律第82号。以下「法」という。）第4条第1項において、農薬の安全性その他の品質に関する審査の結果、「使用に際し、前条第二項第四号の被害防止方法を講じた場合においてもなお人畜に被害を生ずるおそれがあるとき」（法第4条第1項第5号）に該当すると認めるときには、農薬の登録を拒否しなければならないこととされています。

また、法第4条第2項においては、同条第1項第5号に掲げる場合に該当するかどうかの基準は、農林水産大臣が定めて告示することとされています。

当該基準の一つは、令和元年農林水産省告示第480号第1号において、「農薬の使用に際し、…被害防止方法を講じた場合においても、農薬使用者に対する暴露量が、当該農薬の毒性に関する試験成績に基づき農林水産大臣が定める基準に適合しないものとなること」と規定され、「農林水産大臣が定める基準」については、令和4年農林水産省告示第1650号において、農薬の有効成分ごとに、その農薬使用者に対する暴露量が、農薬使用者暴露許容量及び急性農薬使用者暴露許容量を超えないことと規定されています。

今般、令和7年11月20日に開催された第22回農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会における審議の結果、令和4年農林水産省告示第1650号において、チアジニルの農薬使用者暴露許容量及び急性農薬使用者暴露許容量を定めることとしております。

2 意見公募の対象となる案及び関連資料の入手方法

- (1) e-Gov (<https://www.e-gov.go.jp/>) の「パブリック・コメント」欄に掲載
(農林水産省ホームページにあるリンクからアクセスが可能)
- (2) 農林水産省消費・安全局農産安全管理課農薬対策室において配布

3 意見・情報の提出方法

- (1) e-Gov の意見入力フォームを使用する場合

「パブリック・コメント：意見募集中案件詳細画面」の「意見募集要領（提出先を含む）」を確認の上、**意見入力へ**のボタンをクリックし、「パブリック・コメント：意見入力フォーム」より提出を行ってください。

- (2) 郵送の場合

以下担当まで送付してください。

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省消費・安全局農産安全管理課農薬対策室

4 意見・情報の提出上の注意

提出の意見・情報は、日本語に限ります。

頂いた御意見については、個人情報を除き全て公開される可能性があることをあらかじめ御承知おきください。ただし、御意見中に、個人に関する情報であって特定個人を識別し得る記述がある場合及び個人・法人等の財産等を侵害するおそれがあると判断される場合には、公表の際に当該箇所を伏せさせていただきます。

また、提出に当たっては、氏名及び住所（法人又は団体の場合は、名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）並びに連絡先（電話番号又は電子メールアドレス）を明記してください。御記入いただいた個人情報は、提出意見・情報の内容に不明な点があった場合等の連絡や確認等に利用するほか、当該意見・情報の内容に応じて、農林水産省内の関係部署、関係府省等に共有することがあります。

なお、電話での意見・情報はお受けしませんので御了承願います。また、頂いた御意見に対する個別の回答はいたしかねますので、その旨御了承願います。

5 意見・情報受付期間

令和7年12月26日～令和8年1月24日
(郵送の場合も締切日必着とします。)

6 公示資料

告示改正案

7 参考資料

チアジニル農薬使用者安全評価書（案）

○農林水産省告示第 号

令和元年農林水産省告示第四百八十号（農薬取締法第四条第一項第五号に掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める件）第一号の規定に基づき、令和四年農林水産省告示第千六百五十号（農薬取締法第四条第一項第五号に掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める件）第一号の規定に基づき、同号の農林水産大臣が定める基準を定める件）の一部を次のように改正し、公布の日から適用する。

令和 年 月 日

農林水産大臣 鈴木 憲和

次の表により、改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分を加える。

(案)

改正後

(略)

別表

農薬の有効成分	農薬使用者暴露許容量	急性農薬使用者暴露許容量
(略)	(略)	(略)
<u>3'-クロロ-4,4'-ジメチル-1,2,3-チアジアゾール-5-カルボキサニリド (別名チアジニル)</u>	<u>0.04mg/kg体重/日</u>	<u>1.5mg/kg体重</u>

(略)

改正前

(略)

別表

農薬の有効成分	農薬使用者暴露許容量	急性農薬使用者暴露許容量
(略)	(略)	(略)
(新設)	(新設)	(新設)

(略)

(案)

チアジニル 農薬使用者安全評価書

2025年11月20日

農業資材審議会農薬分科会

農薬使用者安全評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬使用者安全評価部会出席者名簿> (第 22 回)	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状	4
3. 申請に係る情報	5
4. 作用機作	5
5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法	5
II. 安全性に係る試験の概要	6
1. 吸収率	6
2. 毒性試験の結果概要	9
3. 公表文献における研究結果	10
III. 農薬使用者暴露許容量 (AOEL)	12
IV. 急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL)	16
V. 暴露量の推計	18
1. 経皮吸収試験	18
2. 圃場における農薬使用者暴露	18
3. 暴露量の推計	18
VI. リスク評価結果	18
評価資料	19

<経緯>

令和6年(2024年) 5月23日 農業資材審議会への諮問(再評価)
令和7年(2025年) 11月20日 農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会(第22回)

<農薬使用者安全評価部会出席者名簿>(第22回)

(委員)

櫻井 裕之

美谷島 克宏

(臨時委員)

天野 昭子

(専門委員)

相崎 健一

アイツバマイ ゆふ

上島 通浩

成田 伊都美

元村 淳子

(専門参考人)

小坂 忠司

チアジニル

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

1.1 申請者 日本農薬株式会社

1.2 登録名 チアジニル
3'-クロロ-4, 4'-ジメチル-1, 2, 3-チアジニアゾール-5-カルボキサンリド

1.3 一般名 tiadinil (ISO)

1.4 化学名

IUPAC 名 : 3'-chloro-4,4'-dimethyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxanilide

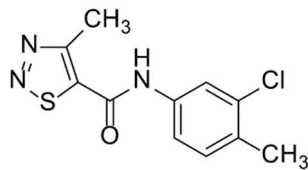
CAS 名 : *N*-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide
(CAS No. 223580-51-6)

1.5 コード番号 SV-89601、NNF-9850

1.6 分子式、構造式、分子量

分子式 $C_{11}H_{10}ClN_3OS$

構造式



分子量 267.74

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目		純度 (%)	試験方法	試験結果																																								
蒸気圧		98.7	OECD 104 気体流動法	1.03× 10 ⁻⁶ Pa (25 °C)																																								
融点		98.7	OECD 102 毛細管法	112.2 °C																																								
沸点		98.7	OECD 103 TG-DTA法	測定不能 (250 °C付近で発熱を伴う反応を起こし、沸点は特定されず)																																								
熱安定性		98.7	OECD 113 DSC法	200 °Cまで安定																																								
溶解度	水	99.9	OECD 105 フラスコ法	13.2 mg/L (20 °C)																																								
	有機溶媒	ヘキサン	98.7	OECD 105 フラスコ法	0.0740 g/L (20 °C)																																							
		トルエン			11.8 g/L (20 °C)																																							
		ジクロロメタン			156 g/L (20 °C)																																							
		アセトン			434 g/L (20 °C)																																							
		メタノール			123 g/L (20 °C)																																							
		酢酸エチル			198 g/L (20 °C)																																							
解離定数 (pK _a)		98.7	OECD 112 分光光度法	10.84 (20 °C)																																								
1-オクタノール/水分配係数 (log P _{ow})		99.9	OECD 107 フラスコ振とう法	3.68 (25 °C)																																								
加水分解性		99.9%	OECD111	安定 (50 °C、5日間、pH 4) 半減期 866日 (25 °C、pH 7) 半減期286日 (25 °C、pH 9)																																								
水中光分解性		99.4% 99.1%	9農産 第5089号	半減期 36.4~39.6時間 (pH 5.45~6.00、25.5 °C、77.4~ 84.1 W/m ² 、280~800 nm)																																								
紫外吸収 (UV/VIS) スペクトル		99.9	<table border="1"> <thead> <tr> <th>極大吸収波長 (nm)</th> <th>吸光度</th> <th>モル吸光係数 (L mol⁻¹ cm⁻¹)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">中性</td> </tr> <tr> <td>205</td> <td>1.1814</td> <td>28193</td> </tr> <tr> <td>235</td> <td>0.5452</td> <td>13010</td> </tr> <tr> <td>274</td> <td>0.3652</td> <td>8715</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">酸性 (メタノール/1 mol/L HCl水溶液 (90/10(v/v)))</td> </tr> <tr> <td>205</td> <td>1.1512</td> <td>27472</td> </tr> <tr> <td>235</td> <td>0.5265</td> <td>12564</td> </tr> <tr> <td>274</td> <td>0.3598</td> <td>8586</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">アルカリ性 (メタノール/1 mol/L NaOH水溶液 (90/10(v/v)))</td> </tr> <tr> <td>219</td> <td>0.6381</td> <td>15227</td> </tr> <tr> <td>254</td> <td>0.5029</td> <td>12001</td> </tr> <tr> <td>310</td> <td>0.1815</td> <td>4331</td> </tr> </tbody> </table>			極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)	中性			205	1.1814	28193	235	0.5452	13010	274	0.3652	8715	酸性 (メタノール/1 mol/L HCl水溶液 (90/10(v/v)))			205	1.1512	27472	235	0.5265	12564	274	0.3598	8586	アルカリ性 (メタノール/1 mol/L NaOH水溶液 (90/10(v/v)))			219	0.6381	15227	254	0.5029	12001	310	0.1815	4331
極大吸収波長 (nm)	吸光度		モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)																																									
中性																																												
205	1.1814		28193																																									
235	0.5452		13010																																									
274	0.3652		8715																																									
酸性 (メタノール/1 mol/L HCl水溶液 (90/10(v/v)))																																												
205	1.1512		27472																																									
235	0.5265		12564																																									
274	0.3598		8586																																									
アルカリ性 (メタノール/1 mol/L NaOH水溶液 (90/10(v/v)))																																												
219	0.6381		15227																																									
254	0.5029		12001																																									
310	0.1815	4331																																										

3. 申請に係る情報

令和 5 年（2023 年）3 月 20 日～3 月 22 日に、再評価を受けるべき者から提出された農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）第 8 条第 3 項に基づく試験成績等を受理した。

チアジニルは、海外では令和 7 年（2025 年）11 月現在、韓国で水稻及び大麦に農薬登録されている。

4. 作用機作

チアジニルはチアジアゾールカルボキサミド系の浸透性殺菌剤である。病原菌に対する直接的な作用はなく、本剤を処理することにより稲のいもち病等に対する抵抗性が誘導されることで効果を発揮すると考えられている。

（FRAC 分類：P3※）

※参照：<https://www.frac.info/>

5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法

評価対象となるチアジニルを含有する農薬 25 製剤について、適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法を別添 1 に示す。

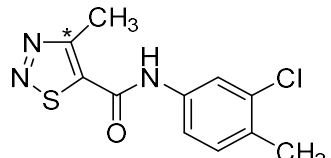
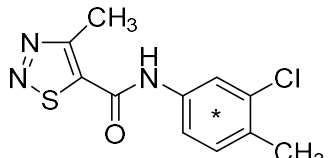
II. 安全性に係る試験の概要

チアジニルは、令和7年(2025年)9月11日、内閣府食品安全委員会において、食品健康影響評価(資料1)がなされている。食品安全委員会では、評価に用いた試験成績において、過去のテストガイドラインに基づき実施されている試験も確認されたが、チアジニルの代謝・毒性プロファイルを適切に把握できることから、評価は可能と判断されている。

1. 吸収率

チアジニルのチアジアゾール環の4位の炭素を¹⁴Cで標識したもの(以下「[thi-¹⁴C]チアジニル」という。)及びフェニル基の炭素を¹⁴Cで標識したもの(以下「[phe-¹⁴C]チアジニル」という。)(表1)を用いた動物代謝試験による動物体内への吸収率(経口吸収率及び血中濃度推移)の概要をまとめた。

表1 標識化合物

略称	[thi- ¹⁴ C]チアジニル	[phe- ¹⁴ C]チアジニル
構造式		
標識位置	チアジアゾール環の4位の炭素を標識	フェニル基の炭素を標識

① 尿、糞及び呼気中排泄(資料2、GLP、資料3、GLP)

SDラット(一群雌雄各4匹)に、[thi-¹⁴C]チアジニル又は[phe-¹⁴C]チアジニルを2 mg/kg体重(以下「低用量」という。)又は200 mg/kg体重(以下「高用量」という。)で単回経口投与して、尿、糞及び呼気中排泄試験が実施された。

尿、糞及び呼気中排泄率は表2に示されている。

いずれの投与群においても排泄は速やかであり、投与後24時間で総投与放射能の大部分(86.2%TAR~96.6%TAR)が尿及び糞中に排泄され、尿中排泄量は27.3%TAR~54.5%TAR、糞中排泄量は42.1%TAR~61.1%TARであった。呼気中への排泄は微量(1.02%TAR以下)であった。

表 2 投与後 168 時間の尿、糞及び呼気中排泄率 (%TAR)

標識体	[thi- ¹⁴ C]チアジニル				[phe- ¹⁴ C]チアジニル			
	2 mg/kg 体重		200 mg/kg 体重		2 mg/kg 体重		200 mg/kg 体重	
性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
尿 ^a	36.4	48.4	27.9	36.7	47.5	56.1	29.9	46.0
糞 ^a	58.1	45.2	61.7	56.7	48.4	42.8	60.5	45.5
呼気 ^b	0.95	1.02	0.43	0.44	0.00	0.00	0.00	0.00
ケージ洗浄液	0.46	0.24	0.14	0.13	0.47	0.40	0.34	0.24
経口吸収率 ^c	37.8	49.7	28.5	37.3	48.0	56.5	30.2	46.2
総回収率	95.9	94.8	90.2	94.0	96.4	99.3	90.8	91.7

表の値は 4 匹の平均値 (ただし、[thi-¹⁴C]チアジニル低用量投与群の雄は 3 匹の平均値)

^a: 投与後 168 時間

^b: [thi-¹⁴C]チアジニル低用量投与群では投与後 48 時間、それ以外の投与群では投与後 24 時間

^c: 尿、呼気及びケージ洗浄液の合計

② 胆汁中排泄 (資料 4、GLP)

胆管カニューレを装着した雄の SD ラット ([thi-¹⁴C]チアジニル投与群 5 匹、[phe-¹⁴C]チアジニル投与群 7 匹) に、[thi-¹⁴C]チアジニル又は[phe-¹⁴C]チアジニルを低用量で単回経口投与して、胆汁中排泄試験が実施された。

尿、糞及び胆汁中排泄率は表 3 に示されている。

いずれの投与群においても胆汁中への排泄は速やかで、投与後 48 時間で胆汁中に 67.0%TAR~69.7%TAR、尿中に 22.2%TAR が排泄され、糞中にはほとんど排泄されず、腸肝循環されることが推定された。

本試験より得られた胆汁及び尿の合計より、単回投与後 48 時間の吸収率は、低用量群で 89.2~91.9%であると算出された。

表 3 投与後 48 時間の尿、糞及び胆汁中排泄率 (%TAR)

標識体	[thi- ¹⁴ C]チアジニル	[phe- ¹⁴ C]チアジニル
	2 mg/kg 体重	
性別	雄	雄
胆汁	67.0	69.7
尿	22.2	22.2
糞	0.40	0.36
消化管内容物	7.71	5.20
経口吸収率 ^a	89.2	91.9
総回収率	97.2	97.5

表の値は[thi-¹⁴C]チアジニル投与群は 5 匹、[phe-¹⁴C]チアジニル投与群は 7 匹の平均値

^a: 胆汁及び尿の合計

③ 血中濃度推移（資料 2、GLP、資料 3、GLP）

SD ラット（一群雌雄各 4 匹）に、[thi-¹⁴C]チアジニル又は[phe-¹⁴C]チアジニルを 2 mg/kg 体重（以下「低用量」という。）又は 200 mg/kg 体重（以下「高用量」という。）で単回経口投与して、血中濃度推移について検討された。

全血及び血漿中薬物動態学的パラメータは表 4 に示されている。

全血及び血漿中放射能の T_{max} は低用量投与群で 1 時間、高用量投与群で 3～9 時間であった。低用量投与群に比べ高用量投与群では吸収の僅かな遅延がみられたが、薬物動態学的パラメータには、性別及び投与量による顕著な差は認められなかった。

表 4 全血及び血漿中薬物動態学的パラメータ

標識体		[thi- ¹⁴ C]チアジニル				[phe- ¹⁴ C]チアジニル			
		2 mg/kg体重		200 mg/kg体重		2 mg/kg体重		200 mg/kg体重	
性別		雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
全血	T _{max} (hr)	1	1	3	3	1	1	9	3
	C _{max} (µg/g)	0.201	0.211	11.6	13.5	0.241	0.176	11.7	13.4
	T _{1/2} (hr)	6.5	6.9	4.5	5.4	5.3	6.6	3.8	5.2
	AUC _{0-168 hr} (hr·µg/g)	1.85	2.02	206	175	1.39	1.36	214	193
血漿	T _{max} (hr)	1	1	3	3	1	1	9	3
	C _{max} (µg/g)	0.337	0.379	16.7	19.7	0.285	0.402	14.5	18.7
	T _{1/2} (hr)	5.1	5.3	4.6	4.4	4.5	4.4	4.0	4.1
	AUC _{0-168 hr} (hr·µg/g)	1.78	1.90	241	210	0.996	1.09	197	191

2. 毒性試験の結果概要

各種毒性試験（資料 5～36）の結果は、資料 1（食品安全委員会農薬評価書）の II.安全性に係る試験の概要を参照した。

チアジニルの急性経口毒性試験の LD₅₀ はラットの雄で 4,270 mg/kg 体重、雌で 3,850 mg/kg 体重であった。経皮、吸入のいずれの投与経路においても急性毒性は弱く（LD₅₀（経皮）：>2,000 mg/kg 体重、LC₅₀（吸入）：>2.48 mg/L）、眼及び皮膚に対して刺激性は認められなかった。Maximization 法による皮膚感受性は陽性（軽度）であったが、Buehler 法では陰性であった。

チアジニル投与による影響は主に体重（増加抑制）、肝臓（重量増加、肝細胞空胞変性等）及び腎臓（尿細管上皮空胞変性等）に認められた。神経毒性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。

発がん性試験において、マウスで肝細胞腺腫の発生頻度の増加がみられたが、腫瘍の発生機序は遺伝毒性によるものとは考え難く、本剤の評価に当たり、閾値を設定することは可能であると考えられた。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量又は最小毒性量のうち最小値はイヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験の 4 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.04 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

また、チアジニルの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた発生毒性試験及びウサギを用いた発生毒性試験の無毒性量 150 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 1.5 mg/kg 体重を急性参照用量（ARfD）と設定した。

3. 公表文献における研究結果（資料 37）

表 5 に示すデータベース [Web of Science (Core Collection) 及び J-STAGE] を用いて、それぞれ 2007 年 7 月 4 日～2022 年 9 月 6 日、2007 年 1 月 1 日～2022 年 9 月 6 日を検索対象期間として、ガイドライン¹に従って有効成分名及びチアジニルを含む製剤名をキーワードとして公表文献を検索した。評価対象となる影響、評価対象の生物種等について絞り込みは行わず、適合性評価を実施した。

Web of Science (Core Collection) を用いた場合、全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野（動物を用いた研究、疫学研究等）に該当する公表文献は 0 報であった。

J-STAGE を用いた場合、全文に基づく適合性評価の対象となるヒトに対する毒性の分野（動物を用いた研究、疫学研究等）に該当する公表文献は 0 報であった。

また、チアジニルは、欧米のリスク評価機関で評価されておらず、JMPR による評価も行われていないため、EFSA、USEPA、JMPR の評価書に引用されている公表文献は検索されなかった。

1：公表文献の収集、選択等のためのガイドライン（令和 3 年 9 月 22 日 農業資材審議会農薬分科会決定、令和 5 年 7 月 27 日一部改正）

表 5 チアジニルに関する公表文献の検索結果

データベース名	Web of Science(Core Collection)
検索対象期間	2007/7/4～2022/9/6
検索結果	
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数	13
ヒトに対する毒性の分野の論文数	0
全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野の論文数	0
全文に基づく適合性評価の結果、評価の目的と適合するとした文献数	0
評価に用いた文献数	0
データベース名	J-STAGE
検索対象期間	2007/1/1～2022/9/6
検索結果	
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数	40
ヒトに対する毒性の分野の論文数	0
全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野の論文数	0
全文に基づく適合性評価の結果、評価の目的と適合するとした文献数	0
評価に用いた文献数	0

Ⅲ. 農薬使用者暴露許容量 (AOEL)

急性毒性試験の結果において、経皮又は吸入経路特異的な毒性は見られなかったこと及び農薬としての使用方法から、チアジニルの農薬使用者暴露許容量 (AOEL) の設定に当たっては、経皮又は吸入経路特異的な毒性を考慮する必要はないと判断した。よって経口投与による短期毒性試験、生殖・発生毒性試験及び神経毒性試験の結果に基づき AOEL を設定する (表 7)。

マウスを用いた 90 日間反復経口投与毒性試験において、雌雄の 3,000 ppm 投与群 (雄: 479 mg/kg 体重/日、雌: 737 mg/kg 体重/日) で認められた前胃粘膜の角化亢進等により、無毒性量が設定できなかったが、より低用量で長期間実施されたマウスを用いた 18 か月間発がん性試験では、無毒性量として 1,000 ppm (雄: 196 mg/kg 体重/日、雌: 267 mg/kg 体重/日) が得られている。そのため、マウスを用いた 18 か月間発がん性試験の結果も含めて AOEL の設定を検討した。

各試験で得られたチアジニルの無毒性量のうち最小値は、イヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験の雌雄における体重増加抑制等に基づく無毒性量 4 mg/kg 体重/日であり、これを AOEL の設定根拠とすることが妥当と判断した。

なお、マウスを用いた 18 か月間発がん性試験 (資料 25) において、7,000 ppm 投与群 (雄: 1,310 mg/kg 体重/日、雌: 1,790 mg/kg 体重/日) の雌雄に肝細胞腺腫の発生頻度の有意な増加が認められたが、腫瘍の発生機序は遺伝毒性によるものとは考え難く、本剤の評価に当たり閾値を設定することが可能であると考えられた。AOEL の設定根拠試験であるイヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験の無毒性量 4 mg/kg 体重/日は、腫瘍の発生頻度の有意な増加が認められた投与量 (7,000 ppm、雄: 1,310 mg/kg 体重/日、雌: 1,790 mg/kg 体重/日) 及び増加が認められなかった投与量 (1,000 ppm、雄 196 mg/kg 体重/日、雌: 267 mg/kg 体重/日) より十分に小さいことから、発がん性に関しては、十分なマージンが確保されていると判断した。

また、最小の無毒性量に近い投与量におけるラットを用いた動物代謝試験の経口吸収率は、胆汁中排泄試験の 2 mg/kg 体重投与群の 89.2~91.9%であった (表 6)。胆汁中排泄試験は雄のみで実施されていたが、その他の尿・糞及び呼気中排泄試験において供試動物の性別による顕著な違いはなく、いずれの総回収率も 90%を超えていることから、雄のみの胆汁中排泄試験の結果からチアジニルの経口吸収率は判断できると考えられた。以上より、チアジニルの経口吸収率は 80%を超えることから、AOEL の設定に当たっては、経口吸収率による補正は必要ないと判断した。

表 6 チアジニルを単回経口投与した場合の経口吸収率 (%)

標識体	[thi- ¹⁴ C]チアジニル	[phe- ¹⁴ C]チアジニル
投与量	2 mg/kg 体重	
性別	雄	雄
経口吸収率	89.2	91.9
総回収率	97.2	97.5

表の値は[thi-¹⁴C]チアジニル投与群は 5 匹、[phe-¹⁴C]チアジニル投与群は 7 匹の平均値。

以上の結果から、イヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験の 4 mg/kg 体重/日を、安全係数 100 で除した 0.04 mg/kg 体重/日を農薬使用者暴露許容量(AOEL)と設定した。

AOEL 0.04 mg/kg 体重/日

(AOEL 設定根拠試験)	1 年間反復経口投与毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	1 年間
(投与方法)	カプセル経口
(無毒性量)	4 mg/kg 体重/日
(毒性所見)	雌雄：体重増加抑制等
(安全係数)	100
(経口吸収率)	補正しない

表 7 AOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/ 日)	LOAEL (mg/kg 体重/ 日)	AOEL 設定に関連する エンドポイント*
ラット	28 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 13)	0、500、5,000、50,000 ppm 雄：0、46.3、466、1,620 雌：0、47.1、442、1,750	雄：46.3 雌：47.1	雄：466 雌：442	雄雌：体重増加抑制、摂餌量減少等
	90 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 14)	0、80、400、2,000、5,000 ppm 雄：0、6.06、28.0、139、 359 雌：0、6.36、32.8、157、 411	雄：28.0 雌：32.8	雄：139 雌：157	雌雄：尿中蛋白増加等
	2 世代 繁殖毒性 GLP (資料 29)	0、80、600、5,000 ppm P 雄：0、4.90、36.4、300 P 雌：0、7.15、53.6、448 F ₁ 雄：0、5.63、42.2、353 F ₁ 雌：0、7.72、58.4、489	親動物及び児動物 P 雄：36.4 P 雌：53.6 F ₁ 雄：42.2 F ₁ 雌：58.4	親動物及び児動物： P 雄：300 P 雌：448 F ₁ 雄：353 F ₁ 雌：489	親動物及び児動物：体重増加抑制等 繁殖能に対する影響は認められな かった。
	発生毒性 GLP (資料 31)	0、30、150、750 (妊娠 6～19 日投与)	母動物：150 胎 児：750	母動物：750 胎 児：-	母動物：体重減少/増加抑制及び摂 餌量減少 胎児：毒性所見なし 催奇形性は認められなかった。
	90 日間 反復経口 投与神経 毒性 GLP (資料 35)	0、400、2,000、5,000 ppm 雄：0、27、139、355 雌：0、29、146、360	雄：139 雌：146	雄：355 雌：360	雌雄：体重増加抑制、摂餌量減少及 び食餌効率低下 反復経口投与神経毒性は認められな かった。
マウス	90 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 27)	0、3,000、10,000、30,000 ppm 雄：0、479、1,550、4,670 雌：0、737、2,110、5,840	雌雄：-	雄：479 雌：737	雌雄：前胃粘膜の角化亢進等
	18 か月間 発がん性 GLP (資料 25)	0、150、1,000、7,000 ppm 雄：0、29.0、196、1,310 雌：0、40.0、267、1,790	雄：196 雌：267	雄：1,310 雌：1,790	雌雄：肝細胞腺腫増加等
ウサギ	発生毒性 GLP (資料 34)	0、30、150、600 (妊娠 6～27 日投与)	母動物：150 胎 児：600	母動物：600 胎 児：-	母動物：体重減少/増加抑制及び妊 娠子宮重量低下 胎 児：毒性所見なし 催奇形性は認められなかった。
イヌ	90 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 15)	0、20、100、500/300 ^a	雌雄：20	雌雄：100	雌雄：小葉中心性肝細胞肥大等

1年間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 18)	0、4、20、100	雌雄：4	雌雄：20	雌雄：体重増加抑制等
---------------------------------------	------------	------	-------	------------

*：最小毒性量で認められた主な毒性所見を示す。

－：無毒性量又は最小毒性量は設定されなかった。

^a：500 mg/kg 体重/日投与群において、投与9週に雌雄各2例を瀕死期切迫と殺したため、それ以降の投与量を300 mg/kg 体重/日に変更した。

IV. 急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL)

チアジニルの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響 (表 8) に対する無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた発生毒性試験及びウサギを用いた発生毒性試験の無毒性量 150 mg/kg 体重/日であり、得られた毒性所見を検討した結果、これを AAOEL の設定根拠とすることが妥当と判断した。

また、最小の無毒性量に近い投与量におけるラットを用いた動物代謝試験は尿・糞及び呼気中排泄試験の 200mg/kg 体重投与群であった。しかしながら、同試験の 2mg/kg 体重投与群と比較し尿中排泄率が同等であり、さらに血中濃度推移試験においても、2mg/kg 体重及び 200mg/kg 体重投与群の血中濃度が投与量にほぼ比例していることから、この投与量範囲では吸収が飽和していないと考えられた。これらのことから、AAOEL の設定にあたっては、表 6 に示す 2mg/kg 体重投与群を用いた胆汁中排泄試験の経口吸収率 (89.2~91.9%) を用いることが妥当と考えられた。

以上の結果から、AOEL と同様に経口吸収率による補正は必要ないと判断し、ラットを用いた発生毒性試験及びウサギを用いた発生毒性試験の無毒性量 150 mg/kg 体重/日を安全係数 100 で除した 1.5 mg/kg 体重を急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL) と設定した。

AAOEL	1.5 mg/kg 体重
(AAOEL 設定根拠試験 ①)	発生毒性試験
(動物種)	ラット
(期間)	妊娠 6~19 日
(投与方法)	強制経口
(無毒性量)	150 mg/kg 体重/日
(毒性所見)	母動物：体重減少/増加抑制及び摂餌量減少
(安全係数)	100
(AAOEL 設定根拠試験 ②)	発生毒性試験
(動物種)	ウサギ
(期間)	妊娠 6~27 日
(投与方法)	強制経口
(無毒性量)	150 mg/kg 体重/日

(毒性所見) 母動物：体重減少/増加抑制
 (安全係数) 100

(経口吸収率) 補正しない

表 8 AAOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)	無毒性量及び AAOEL に関連する エンドポイント* (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)
ラット	急性経口毒性 GLP (資料 5)	雌雄：1,600、2,240、3,136、4,390、6,147	— 雌雄：自発運動低下、腹臥位等
	急性経口毒性 GLP (資料 6)	雌雄：1,600、2,240、3,136、4,390、6,147	— 雌雄：自発運動低下、横臥位等
	発生毒性 GLP (資料 31)	雌：0、30、150、750	母動物：150 母動物：体重減少/増加抑制及び摂餌 量減少
ウサギ	発生毒性 GLP (資料 34)	雌：0、30、150、600	母動物：150 母動物：体重減少/増加抑制

—：無毒性量は設定されなかった。

*：最小毒性量で認められた主な毒性所見を示す。

V. 暴露量の推計

1. 経皮吸収試験

チアジニルを含有する農薬製剤で実施した経皮吸収試験結果は提出されていない。

2. 圃場における農薬使用者暴露

チアジニルを含有する農薬製剤で実施した圃場における農薬使用者暴露試験結果は提出されていない。

3. 暴露量の推計

申請された製剤について、I. の 5. 適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（別添 1）に従って使用した場合の暴露量を予測式により推計した。推計に当たっては、「農薬使用者への影響評価ガイダンス」及び「予測式に分類していない使用方法についての使用者安全確保の考え方」（令和 4 年 12 月 1 日農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会決定、令和 6 年 10 月 24 日最終改訂）（以下「部会決定」という。）に準拠した。

推計に用いたパラメータ等及び暴露量の推計結果を別添 2 に示す。

VI. リスク評価結果

I. の 5. 適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（別添 1）に従って使用した場合の暴露量は、AOEL 及び AAOEL を下回っていた（別添 2）。

評価資料

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
1	2024	農薬評価書 チアジニル（第3版） 食品安全委員会、公表 URL : https://www.fsc.go.jp/fscis/attachedFile/download?retrievalId=kya25060416076&fileId=210
2	1999	Absorption, Distribution, Metabolism and Excretion of [Thiadiazole-4- ¹⁴ C] SV-89601 Following a Single Oral Administration to Male and Female Rats GLP、未公表
3	2001	Absorption, Distribution, Metabolism and Excretion of [Phenyl-U- ¹⁴ C] SV-89601 Following a Single Oral Administration to Male and Female Rats GLP、未公表
4	2001	[Thiadiazole-4- ¹⁴ C]および[Phenyl-U- ¹⁴ C] SV-89601のラット単回経口投与による胆汁排泄試験 GLP、未公表
5	2000	SV-89601のSD系ラットを用いた急性経口投与毒性試験 GLP、未公表
6	2000	SV-89601のFischer系ラットを用いた急性経口投与毒性試験 GLP、未公表
7	1999	SV-89601のSD系ラットを用いた急性経皮投与毒性試験 GLP、未公表
8	1999	SV-89601 Technical: Acute (Four-Hour) Inhalation Study in Rats GLP、未公表
9	2000	SV-89601原体のウサギを用いた皮膚一次刺激性試験 GLP、未公表
10	2000	SV-89601原体のウサギを用いた眼一次刺激性試験 GLP、未公表
11	2000	SV-89601原体のモルモットを用いた皮膚感作性試験（Maximization 法） GLP、未公表
12	2000	SV-89601原体のモルモットを用いた皮膚感作性試験（Buehler Test） GLP、未公表
13	1999	SV-89601のラットにおける28日間亜急性経口毒性試験 GLP、未公表
14	2000	SV-89601のラットにおける90日間亜急性経口毒性試験 GLP、未公表
15	2000	SV-89601のイヌにおける13週間亜急性経口投与毒性試験 GLP、未公表
16	1999	SV-89601のイヌにおける2週間亜急性経口投与毒性試験 GLP、未公表
17	2002	イヌを用いたチアジニルの90日間反復投与毒性試験（Project No. H-98320）および1年間反復投与毒性試験（Project No. H-98321）の病理組織標本（腸管）のピアレビュー 非 GLP、未公表
18	2000	SV-89601のイヌにおける強制経口投与による52週間慢性毒性試験 GLP、未公表
19	2000	SV-89601原体の細菌を用いる復帰変異試験 GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
20	2000	SV-89601のチャイニーズハムスター培養細胞を用いた <i>in vitro</i> 染色体異常試験 GLP、未公表
21	2000	SV-89601のマウスを用いた小核試験 GLP、未公表
22	2001	SV-89601のラットにおける慢性毒性・発癌性併合試験 GLP、未公表
23	2002	「SV-89601のラットにおける慢性毒性・発癌性併合試験」における病理データの追加統計解析 非GLP、未公表
24	2002	「SV-89601のラットにおける慢性毒性・発癌併合試験」における一般状態所見の再統計解析 非GLP、未公表
25	2001	SV-89601のマウスにおける混餌経口投与による発がん性試験 GLP、未公表
26	1999	SV-89601のマウスにおける2週間混餌経口投与毒性試験 GLP、未公表
27	1999	SV-89601のマウスにおける13週間亜急性混餌経口投与毒性試験 GLP、未公表
28	2001	SV-89601原体のマウスにおける肝薬物代謝酵素誘導、細胞増殖および活性酸素産生能試験 非GLP、未公表
29	2000	SV-89601原体のラットにおける繁殖毒性試験 GLP、未公表
30	1999	SV-89601原体のラットにおける繁殖毒性試験：用量設定試験 GLP、未公表
31	2000	SV-89601原体のラットにおける催奇形性試験 GLP、未公表
32	2000	SV-89601原体のラットにおける催奇形性試験：用量設定試験 GLP、未公表
33	2000	SV-89601原体のウサギにおける催奇形性試験：用量設定試験 GLP、未公表
34	2000	SV-89601原体のウサギにおける催奇形性試験 GLP、未公表
35	2002	Tiadinil: Neurotoxicity study by dietary administration to CD rats for 13 weeks GLP、未公表
36	2000	SV-89601原体：生体の機能に及ぼす影響に関する試験 GLP、未公表
37	2023	チアジニル公表文献報告書 URL： https://www.maff.go.jp/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ta-14.pdf
38	2023	チアジニルの試験成績の概要及び考察 未公表

別添 1：適用病害虫の範囲及び使用方法（チアジニル）

目 次

1. 登録番号 21048：ブイゲット箱粒剤 （チアジニル 12.0 %粒剤）	3
2. 登録番号 21049：ブイゲット粒剤 （チアジニル 6.0 %粒剤）	3
3. 登録番号 21052：ブイゲットプリンス粒剤 1 0 登録番号 22003：コメホープ箱粒剤 （フィプロニル 1.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	3
4. 登録番号 21053：ブイゲットアドマイヤー粒剤 （イミダクロプリド 2.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	4
5. 登録番号 21298：ブイゲットフロアブル （チアジニル 30.0 %水和剤）	4
6. 登録番号 21357：ブイゲットバリアード粒剤 （チアクロプリド 1.5 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	5
7. 登録番号 22010：ブイゲットプリンスリンバー L 粒剤 （フィプロニル 1.0 %・チアジニル 6.0 %・フラメトピル 4.0 %粒剤）	6
8. 登録番号 22425：アプライ箱粒剤 （チアジニル 12.0 %粒剤）	6
9. 登録番号 22786：アプライフェルテラ粒剤 （クロラントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	7
1 0. 登録番号 23302：ブイゲットフェルテラチェス L 粒剤 （クロラントラニリプロール 0.75 %・ピメトロジン 3.0 %チアジニル 6.0 %粒剤）	8
1 1. 登録番号 23475：ブイゲットフェルテラ粒剤 （クロラントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	9
1 2. 登録番号 23605：O A Tブイゲットグランドオンコル粒剤 （ベンフラカルブ 8.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	10
1 3. 登録番号 23666：ブイゲットパディート粒剤 （シアントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	11
1 4. 登録番号 23751：アプライパディート粒剤 （シアントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	12
1 5. 登録番号 23990：ブイゲットバイソン粒剤 （チアクロプリド 1.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤）	13
1 6. 登録番号 24135：ブイゲットフェルテラゼクサロン L 粒剤	

	(クロラントラニプロール 0.75 %・トリフルメゾピリム 0.75 %・チアジニル 6.0 %粒剤) ...	14
17.	登録番号 24233 : ブイゲットハコレンジャーL粒剤、 登録番号 24356 : ハコガード粒剤 (クロラントラニプロール 0.75 %・トリフルメゾピリム 0.75 %・チアジニル 6.0 %・チフルザ ミド 3.0 粒剤)	15
18.	登録番号 24711 : ブイゲットパディートフロアブル (シアントラニプロール 1.87 %・チアジニル 30.0 %水和剤)	16
19.	登録番号 24712 : リョーガパディート粒剤 (シアントラニプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)	17
20.	登録番号 24715 : ブイゲットパラタスL粒剤 (スピネトラム 0.75 %・トリフルメゾピリム 0.75 %・チアジニル 6.0 %粒剤)	18
21.	登録番号 24718 : リョーガエザルタ粒剤 (スピネトラム 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)	19
22.	登録番号 24719 : リョーガフェルテラ粒剤 (クロラントラニプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)	20
23.	登録番号 24720 : ブイゲットバイソンE V粒剤 (チアクロプリド 1.0 %・チアジニル 12.0 %・ペンフルフェン 2.0 %粒剤)	21

1. 登録番号 21048 : ブイゲット箱粒剤
(チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアジニルを含む 農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り 50 g	緑化期~ 移植当日	1回	育苗箱中の 苗の上から 均一に散布 する。	3回以内(育苗箱散布 及び側条施用は合計 1回以内、本田での 散布は2回以内)
	内穎褐変病		移植当日			

2. 登録番号 21049 : ブイゲット粒剤
(チアジニル 6.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアジニルを含む 農薬の総使用回数
稲	いもち病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病	3 kg/10 a	葉いもちの初発 20~7日前(収穫 45日前まで)	2回 以内	湛水散布	3回以内(直播での種時 又は移植時までの処理は 1回以内、本田での散布は 2回以内)

3. 登録番号 21052 : ブイゲットプリンス粒剤 10
登録番号 22003 : コメホープ箱粒剤
(フィプロニル 1.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	フィプロニルを 含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 いんすぶらうしん いんぼらうしん うか類 こぼろめい こめいチュウ けいご類 いんぼらうしん 白葉枯病	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1箱当り 50 g	緑化期~ 移植当日	1回	育苗箱 の上から均一 に散布する。	1回	3回以内(移植時までの 処理は 1回以内、 本田での 散布は2回 以内)
	高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1箱当り 50~100 g)						
	もみ枯細菌 病 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1箱当り 50g	移植当日				

4. 登録番号 21053 : ブイゲットアドマイヤー粒剤

(イミダクロプリド 2.0 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	イミダクロプリド を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネズツウムシ イネトヨイシ ツマグロヨコバイ ウカ類 イネヒメコガリバエ イネサザミウマ	高密度には種する 場合は 1 kg/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当り 50~100 g)	移植 2 日前 ~移植当日	1 回	育苗箱中 の苗の上 から均一 に散布 する	3 回以内(移植 時までの処理 は 1 回以内、 本田での散布 は 2 回以内)	3 回以内 (移植時まで の処理は 1 回以内、本 田での散布 は 2 回以内)
	育苗箱 (30×60×3cm、使用 土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植当日					
	内穎褐変病		高密度には種する 場合は 1 kg/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100g)				

5. 登録番号 21298 : ブイゲットフロアブル

(チアジニル 30.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病	25~50 倍	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 500 mL	移植 3 日前 ~移植当日	1 回	灌注	3 回以内(移植 時までの処理 は 1 回以内、 本田での散布 は 2 回以内)
	白葉枯病 もみ枯細 菌病	50 倍					
稲	いもち病	原液	400~500 mL/10 a	移植時	1 回	ペースト 肥料に混 合し側条 施肥田植 機で施用 する。	3 回以内(直播 での種時又 は移植時ま での処理は 1 回 以内、本田で の散布は 2 回 以内)

6. 登録番号 21357：ブイゲットバリアード粒剤

(チアクロプリド 1.5%・チアジニル 12.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアクロプリドを 含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネミズウムシ イネトモイムシ ツマグロヨコバイ 白葉枯病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 10 日前 ~移植当日	1 回	育苗箱 中の苗 の上か ら均一 に散布 する	1 回	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 での散布は 2 回以内)
	もみ枯細菌病		移植 3 日前 ~移植当日				
	ニカメイチュウ		移植当日				
	いもち病 イネミズウムシ イネトモイムシ ツマグロヨコバイ 白葉枯病	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 10 日前 ~移植当日				
	もみ枯細菌病		移植 3 日前 ~移植当日				
	ニカメイチュウ		移植当日				

7. 登録番号 22010 : ブイゲットプリンスリンバーL粒剤

(フィプロニル 1.0 %・チアジニル 6.0 %・フラメトピル 4.0 %粒剤)

作物名	適用 病虫害名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 カンカ類 ニカメチユウ イネミスヅウムシ イネトコイムシ コブノメイガ イネツトムシ 白葉枯病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植当日	1 回	本剤の所定 量を育苗箱 中の苗の上 から均一に 散布する。
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50~100 g)			
	もみ枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50g	移植 3 日前 ～ 移植当日		
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)			
	内穎褐変病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 当日		
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)			

フィプロニルを含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む農薬の 総使用回数	フラメトピルを含む農薬の 総使用回数
1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での散布は2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

8. 登録番号 22425 : アプライ箱粒剤

(チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病虫害名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアジニルを含む 農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	は種前	1 回	本剤の所定量 を育苗箱の床 土に均一に混 和する	3回以内(移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は2回 以内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病		は種時 覆土前		本剤の所定量 を育苗箱の上 から均一に散 布する	

9. 登録番号 22786 : アプライフェルテラ粒剤

(クロラントラニプロール 0.75 % ・ チアジニル 12.0 % 粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラント リプロール を含む 農薬の総 使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	は種前	1 回	本剤の所定 量を育苗箱 の床土又は 覆土に 均一に混和 する。	1回	3回以内(移植 時までの処理 は1回以内、 本田での散布 は2回以内)
		高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					
	イネスヅウムシ イネトオムシ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g			高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)		
いもち病 イネスヅウムシ イネトオムシ 白葉枯病 もみ枯細菌病 ニカメチュウ ツマゲロヨコバイ ワタヒコヤカ コブノメイガ イネヒメモグリハエ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)	は種時 覆土前		本剤の所定 量を育苗箱 の上から 均一に散布 する。		

10. 登録番号 23302 : ブイゲットフェルテラチェスL粒剤

(クロラントラニリプロール 0.75 %・ピメトロジン 3.0 %チアジニル 6.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネスズムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメカガ フタホシコヤガ ニカメテユウ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植当日	1 回	本剤の所定量を 育苗箱の上から 均一に散布する
	イネトムシ		移植 3 日前 ～ 移植当日		
	内穎褐変病		移植当日		

クロラントラニリプロールを含む農薬の 総使用回数	ピメトロジンを含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む農薬の 総使用回数
1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田 では2回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田で の布は2回以内)

1 1. 登録番号 23475 : ブイゲットフェルテラ粒剤

(クロラントラニプロール 0.75 % ・ チアジニル 12.0 % 粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニプロール を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む 農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 ヒメハダ イネミズウムシ イネトヨイムシ ツマグロヨコバイ アオヒヨドリ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植 当日	1 回	本剤の 所定量を 育苗箱の 上から均 一に散布 する。	1回	3回以内(移植時 までの処理は 1回以内、本田 での散布は2回 以内)
		高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					
	もみ枯細菌病 イネヒメハダ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植 3 日前 ～ 移植 当日				
		高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					
	コブノメカ イネトヨイムシ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植 当日				
		高密度には種する場 合は 1 kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					

12. 登録番号 23605 : OATブイゲットブランドオンコル粒剤
(ベンフラカルブ 8.0%・チアジニル 12.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ベンフラカルブを 含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 白葉枯病 イネスズウムシ イネトヨイムシ ヒメヒゲウカ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植前 3 日 ～ 移植 当日	1 回	本剤の所 定量を育 苗箱の苗 の上から 均一に散 布する。	1 回	3 回以内(移植 時までの処理 は 1 回以内、 本田での散布 は 2 回以内)
	セジロウカ ツマグロヨコバイ ニカメイトウ イネトムシ イネカサネガリバエ イネカサネガリバエ イネカラバエ	高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 当日				
	フタオビコヤカ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g					

13. 登録番号 23666 : ブイゲットパディート粒剤
(シアントラニリプロール 0.75 %・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネスズウムシ イネトオムシ ニカメテユ ツマグロヨコバイ イネヒメグサ アオビヨコガ コブノメイガ イナゴ類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	緑化期 ～ 移植当日	1 回	本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。	1回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)
	イネトムシ ヒメトビウカ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 3 日前 ～ 移植当日				
稲	いもち病 イネトオムシ イネスズウムシ	1 kg/10 a	移植時		側条施用		3 回以内(直播では種時又は移種時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)
直播水稲	いもち病 イネスズウムシ イネトオムシ		は種時		は種同時施肥機を用いて土中施用する。		3 回以内(は種時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)

1 4. 登録番号 23751 : アプライパディート粒剤

(シアントラニプロール 0.75 % ・チアジニル 12.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シアントラニプロール を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 イネスズムシ イネトヨイムシ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g 高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)	は種前	1 回	本剤の所定 量を育苗箱 の床土又は 覆土に均一 に混和 する。	1 回	3 回以内(移植 時までの処理 は1回以内、 本田での散布 は2回以内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネスズムシ イネトヨイムシ ニカメチユウ ツマグロヨコバイ フタホヒコヤガ イネヒメホクリハエ イネコノメイガ イネツトムシ ヒメトビウカ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g 高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)	は種時 覆土前		本剤の所定 量を育苗箱 の上から均 一に散布 する。		

15. 登録番号 23990 : ブイゲットバイソン粒剤

(チアクロプリド 1.0 % ・ チアジニル 12.0 % 粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアクロプリドを 含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 いんげんアザヒ いんげんアザヒ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植 当日	1 回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	1回	3回以内(移植 時までの処理 は1回以内、 本田での散布 は2回以内)
		高密度には種する場 合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					
稲		1 kg/10 a	移植時		側条施用		3回以内(直播で のは種時又は移 種時までの処理 は1回以内、本 田での散布は2 回以内)

16. 登録番号 24135：ブイグットフェルテラゼクサロンL粒剤

(クロラントラニプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・チアジニル 6.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニプロールを含む 農薬の 総使用回数	トリフルメゾピリム を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の総 使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネスズムシ イネトヨイシ ウカ類 ツマグロヨコバイ コブノメガ ニカメチユウ イネトムシ アオヒコヤガ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植 当日	1 回	本剤の所 定量を育 苗箱の上 から均一 に散布 する。	1 回	1 回	3 回以内(移植 時までの 処理は1 回以 内、本田での 散布は 2 回以内)
	内穎褐変病	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り 50 g 高密度には種する場 合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り 50~100 g)	移植 3日前 ～ 移植 当日					
稲	いもち病 ウカ類 コブノメガ	1 kg/10a	移植時		側条施用			3 回以内(直播 での種時又 は移植時ま での処理は1 回 以内、本田で の散布は 2 回以内)

17. 登録番号 24233 : ブイゲットハコレンジャーL粒剤、

登録番号 24356 : ハコガード粒剤

(クロラントラニプロール 0.75 % ・ トリフルメゾピリム 0.75 % ・ チアジニル 6.0 % ・ チフルザミド 3.0 粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニプロールを含む 農薬の総 使用回数	トリフルメゾピリムを含む 農薬の総 使用回数	チアジニルを 含む 農薬の総 使用回数	チフルザミド を含む 農薬の総 使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌 病 イネミズゾウムシ イネトオイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメカガ ニカメイチュウ イネトムシ フタホヒコヤカガ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌 約5 L) 1箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植 当日	1回	本剤の所定 量を育苗箱 の上から均 一に散布す る。	1回	1回	3回以内 (移植時 までの処 理は1回 以内、本 田での散 布は2回 以内)	3回以内 (移植時 までの処 理は1回 以内、本 田では2 回以内)
	内穎褐変病		移植 3日前 ～ 移植 当日						
	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌 病 イネミズゾウムシ イネトオイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメカガ ニカメイチュウ イネトムシ フタホヒコヤカガ	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土壌 約5 L)1箱当り 50~100 g)	緑化期 ～ 移植 当日						
	内穎褐変病		移植 3日前 ～ 移植 当日						

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シアントラニプロール を含む農薬の 総使用回数	トリフルメゾピリム を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む 農薬の 総使用回数	チルメクトを含む 農薬の 総使用回数
稲	カンカ類 コブノメイガ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条 施用	1回	1回	3回以内(直播で のは種又は移植 時までの処理は 1回以内、本田 での散布は2回 以内)	3回以内 (直播では種 又は移植時ま での処理は1回 以内、本田で は2回以内)

18. 登録番号 24711 : ブイゲットパディートフロアブル

(シアントラニプロール 1.87%・チアジニル 30.0%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シアントラニプロール を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む 農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネズグウムシ イネトヨイムシ ニカメテウ フタホヒコヤガ	25~50倍 25倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌 約5 L)1箱当り 500 mL	移植 3日前 ~ 移植 当日	1回	灌注	1回	3回以内(移植時ま での処理は1回以内、 本田での散布は2回 以内)

19. 登録番号 24712：リョーガパディート粒剤

(シアントラニプロール 0.75%・チアジニル 12.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シアントラニプロール を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む 農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	本剤の所定量を 育苗箱の床土又 は覆土に均一に 混和する。	1回	3回以内(移植時 までの処理は 1回以内、本田 での散布は2回 以内)
	いもち病 イネズゾウムシ イネトヨイムシ		は種時 (覆土前) ～ 移植 当日		本剤の所定量を 育苗箱の上から 均一に散布 する。		
	ニカメイチュウ フタホトコヤガ イコゴ類		移植 当日				
	いもち病	高密度には種す る場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌 約5 L)1箱当り 50~100 g)	は種前		本剤の所定量を 育苗箱の床土又 は覆土に均一に 混和する。		
	いもち病 イネズゾウムシ イネトヨイムシ		は種時 (覆土前) ～ 移植 当日		本剤の所定量を 育苗箱の上から 均一に散布 する。		
	ニカメイチュウ フタホトコヤガ イコゴ類		移植 当日				
稲	いもち病	1 kg/10 a	移植時		側条施用		3回以内(直播で のは種時又は 移植時までの 処理は1回以 内、本田での 散布は2回以内)

20. 登録番号 24715 : ブイゲットパラタスL粒剤

(スピネトラム 0.75 % ・ トリフルメゾピリム 0.75 % ・ チアジニル 6.0 % 粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	スピネトラムを 含む農薬の 総使用回数	トリフルメゾピ リムを含む 農薬の総 使用回数	チアジニルを含む 農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 コブノメイガ ウカ類	育苗箱(30×60× 3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植 当日	1 回	本剤の所 定量を育 苗箱の上 から均一 に散布 する	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内(移植時 までの処理は 1 回以内、本田 での散布は 2 回 以内)
	イネスズウムシ幼虫 イネトオイムシ ツマグロヨコバイ		移植 当日					
	いもち病 コブノメイガ ウカ類 イネスズウムシ幼虫 イネトオイムシ ツマグロヨコバイ	高密度には種す る場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60× 3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 当日					

2 1. 登録番号 24718 : リョーガエザルタ粒剤

(スピネトラム 0.75 % ・ チアジニル 12.0 % 粒剤)

作物名	適用 病虫害名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	スピネトラムを 含む農薬の 総使用回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌 約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	本剤の所定量 を育苗箱の床 土又は覆土に 均一に混和 する。	3回以内(移植 時までの処 理は1回以 内、本田で の散布は2回 以内)	3回以内(移 植時までの 処理は1回以 内、本田で の散布は2回 以内)
			は種時 (覆土前) ～ 移植 当日		本剤の所定量 を育苗箱の上 から均一に散 布する。		
			移植 当日				
	いもち病	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土壌 約5 L)1箱当り 50~100 g)	は種前		本剤の所定量 を育苗箱の床 土又は覆土に 均一に混和 する。		
			は種時 (覆土前) ～ 移植 当日		本剤の所定量 を育苗箱の上 から均一に散 布する。		
			移植 当日				
稲	いもち病	1 kg/10 a	移植時		側条施用	3回以内(直播 での種時 又は移植時 までの処理 は1回以内、 本田での散 布は2回以内)	3回以内(直 播での種 時又は移植 時までの処 理は1回以 内、本田で の散布は2回 以内)

2.2. 登録番号 24719：リョーガフェルテラ粒剤

(クロラントラニプロール 0.75%・チアジニル 12.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニプロール を含む農薬の 総使用回数	チアジニルを含む 農薬の総使用 回数
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌 約5 L) 1箱当り 50 g	は種前	1回	本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)
			は種時 (覆土前) ～ 移植 当日		本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。		
	イネミズウムシ イネトモイムシ ニカメイチュウ フタホビコヤガ		移植 当日		本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。		
	いもち病		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱 当り 50~100 g)		は種前		
			は種時 (覆土前) ～ 移植 当日		本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。		
			移植 当日				
稲	いもち病	1 kg/10 a	移植時		側条施用		3回以内(直播での場合は種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)

23. 登録番号 24720：ブイゲットバイソンEV粒剤

(チアクロプリド 1.0%・チアジニル 12.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアクロプリド を含む農薬 の総使用 回数	チアジニルを 含む農薬の 総使用回数	ペンフルフェン を含む 農薬の総 使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 イネスズウムシ イネトヨイシ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植 当日	1回	本剤の所 定量を育 苗箱の上 から均一 に散布 する	1 回	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 での散布は 2 回以内)	1 回
		高密度には種する 場合は 1 kg/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)	移植 当日					
稲	いもち病	1 kg/10 a	移植時		側条施用		3 回以内(直 播では種 時又は移植 時までの処 理は 1 回以 内、本田で の散布は 1 回以内)	

別添2：暴露量の推計（チアジニルを有効成分として含む製剤）

	頁
1. 登録番号21048：ブイゲット箱粒剤 （チアジニル12.0%粒剤）	3
2. 登録番号21049：ブイゲット粒剤 （チアジニル6.0%粒剤）	4
3. 登録番号21052：ブイゲットプリンス粒剤10 登録番号22003：コメホープ箱粒剤 （フィプロニル1.0%・チアジニル12.0%粒剤）	5
4. 登録番号21053：ブイゲットアドマイヤー粒剤 （イミダクロプリド2.0%・チアジニル12.0%粒剤）	6
5. 登録番号21298：ブイゲットフロアブル （チアジニル30.0%水和剤）	7
6. 登録番号21357：ブイゲットバリアード粒剤 （チアクロプリド1.5%・チアジニル12.0%粒剤）	8
7. 登録番号22010：ブイゲットプリンスリンバーL粒剤 （フィプロニル1.0%・チアジニル6.0%・フラメトピル4.0%粒剤）	9
8. 登録番号22425：アプライ箱粒剤 （チアジニル12.0%粒剤）	10
9. 登録番号22786：アプライフェルテラ粒剤 （クロラントラニプロール0.75%・チアジニル12.0%粒剤）	11
10. 登録番号23302：ブイゲットフェルテラチェスL粒剤 （クロラントラニプロール0.75%・ピメトロジン3.0%チアジニル6.0%粒剤）	12
11. 登録番号23475：ブイゲットフェルテラ粒剤 （クロラントラニプロール0.75%・チアジニル12.0%粒剤）	13
12. 登録番号23605：OATブイゲットグランドオンコル粒剤 （ベンフラカルブ8.0%・チアジニル12.0%粒剤）	14
13. 登録番号23666：ブイゲットパディート粒剤 （シアントラニプロール0.75%・チアジニル12.0%粒剤）	15
14. 登録番号23751：アプライパディート粒剤 （シアントラニプロール0.75%・チアジニル12.0%粒剤）	16
15. 登録番号23990：ブイゲットバイソン粒剤 （チアクロプリド1.0%・チアジニル12.0%粒剤）	17
16. 登録番号24135：ブイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤 （クロラントラニプロール0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・ チアジニル6.0%粒剤）	18
17. 登録番号24233：ブイゲットハコレンジャーL粒剤 登録番号24356：ハコガード粒剤 （クロラントラニプロール0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・ チアジニル6.0%・チフルザミド3.0%粒剤）	19
18. 登録番号24711：ブイゲットパディートフロアブル （シアントラニプロール1.87%・チアジニル30.0%水和剤）	20
19. 登録番号24712：リョーガパディート粒剤 （シアントラニプロール0.75%・チアジニル12.0%粒剤）	21
20. 登録番号24715：ブイゲットパラタスL粒剤 （スピネトラム0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・チアジニル6.0%粒剤）	22

2 1. 登録番号24718：リョーガエザルタ粒剤 (スピネトラム0.75%・チアジニル12.0%粒剤)	23
2 2. 登録番号24719：リョーガフェルテラ粒剤 (クロラントラニリプロール0.75%・チアジニル12.0%粒剤)	24
2 3. 登録番号24720：ブイゲットバイソンE V粒剤 (チアクロプリド1.0%・チアジニル12.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤)	25

*：本資料は、製剤のハザード区分に応じた防護装備も考慮して作成した。

1. 登録番号21048：パイグット箱粒剤（チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	21048
	種類・名称	チアジニル粒剤(パイグット箱粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希 積 倍 数	散 布 時 の 予 測 式	防護装備あり								備 考		
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)				
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/緑化期～移植当日/育苗箱中の苗の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水 稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/育苗箱中の苗の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水 稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL(mg/kg体重/日) \times 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL(mg/kg体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2. 登録番号21049：ブイグット粒剤（チアジニル6.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	21049
	種類・名称	チアジニル粒剤(ブイグット粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	6.0 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について デフォルト値を使用

【補助2】面積について デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)				
1	稲	3 kg/10a/葉いもちの初発20~7日前(収穫45日前まで)/湛水 散布/3回	1	固形剤(粒剤)_水 稲(手散布)							27.8	120.7	69.4	8	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL(mg/kg体重/日) \times 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL(mg/kg体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3. 登録番号21052：パイゲットプリンス粒剤 1 0 登録番号22003：コメホープ箱粒剤（フィプロニル1.0%・チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	21052
	種類・名称	フィプロニル・チアジニル粒剤(パイゲットプリンス粒剤 1 0)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL (1)	%AAOEL (2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/緑化期/育苗箱中の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	1.9	3.3	4.7	0.2	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/緑化期~移植当日/育苗箱中の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	1.9	3.3	4.7	0.2	
3	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/育苗箱中の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	1.9	3.3	4.7	0.2	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4. 登録番号21053：ブイゲットアドマイヤー粒剤（イミダクロプリド2.0%・チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	21053
	種類・名称	イミダクロプリド・チアジニル粒剤(ブイゲットアドマイヤー粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考			
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)				($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植2日前~移植当日/育苗箱中の苗の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水 稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/育苗箱中の苗の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水 稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	

¹⁾: AOEL占有率 = 反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

²⁾: AAOEL占有率 = 急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5. 登録番号21298：ブイグットフロアブル（チアジニル30.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21298
	種類・名称	チアジニル水和剤(ブイグットフロアブル)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	30 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液	25	50
	50	50

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	稲(箱育苗)	25倍, 0.5 L/箱/移植3日前~移植当日/灌注/3回	25	液剤_水稲_育苗箱(育苗箱)		不浸透性手袋			不浸透性手袋	28.4	48.7	71	3.2	
2	稲(箱育苗)	50倍, 0.5 L/箱/移植3日前~移植当日/灌注/3回	50	液剤_水稲_育苗箱(育苗箱)		不浸透性手袋			不浸透性手袋	14.2	24.3	35.5	1.6	
3	稲	1倍, 0.5 L/10a/移植時/ペースト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

¹⁾: AOEL占有率 = 反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

²⁾: AAOEL占有率 = 急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

6. 登録番号21357：ブイゲットバリアード粒剤（チアクロプリド1.5%・チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	21357
	種類・名称	チアクロプリド・チアジニル粒剤(ブイゲットバリアード粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)				
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植10日前~移植当日/育苗箱中の苗の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植3日前~移植当日/育苗箱中の苗の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	
3	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/育苗箱中の苗の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000 ($\mu\text{g/mg}$) ÷ AOEL (mg/kg体重/日) × 100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000 ($\mu\text{g/mg}$) ÷ AAOEL (mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

7. 登録番号22010：パイグットプリンスリンパーL粒剤（フィプロニル1.0%・チアジニル6.0%・フラメトピル4.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22010
	種類・名称	フィプロニル・チアジニル・フラメトピル粒剤(パイグットプリンスリンパーL粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	6 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL (1)	%AAOEL (2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/緑化期～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の苗の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	0.9	1.6	2.4	0.1	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植3日前～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の苗の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	0.9	1.6	2.4	0.1	
3	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/本剤の所定量を育苗箱の苗の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	0.9	1.6	2.4	0.1	

1): AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL(mg/kg体重/日) \times 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL(mg/kg体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

8. 登録番号22425：アブライ箱粒剤（チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22425
	種類・名称	チアジニル粒剤(アブライ箱粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希積 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)				
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/は種前/本剤の所定量を育苗箱の床土に均一に混和する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/は種時覆土前/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL(mg/kg体重/日) \times 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL(mg/kg体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

9. 登録番号22786：アプライフェルテラ粒剤（クロラントラニプロール0.75%・チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22786
	種類・名称	クロラントラニプロール・チアジニル粒剤(アプライフェルテラ粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり							備考			
					調製時		散布時			反復	急性		%AOEL	%AAOEL	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)		1)	2)	
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/は種前/本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/は種前/本剤の所定量を育苗箱の床土に均一に混和する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	
3	稲(箱育苗)	50 g/箱/は種時覆土前/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 0. 登録番号23302：ブイゲットフェルテラチェスL粒剤（クロラントラニプロール0.75%・ピメトロジン3.0%チアジニル6.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23302
	種類・名称	クロラントラニプロール・ピメトロジン・チアジニル 粒剤 (ブイゲットフェルテラチェスL粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	6 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)				
1	稲 (箱育苗)	50 g/箱/緑化期～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤 (粒剤)_水 稲_育苗箱 (育苗箱)							15.8	27.2	39.6	1.8	
2	稲 (箱育苗)	50 g/箱/移植3日前～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤 (粒剤)_水 稲_育苗箱 (育苗箱)							15.8	27.2	39.6	1.8	
3	稲 (箱育苗)	50 g/箱/移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤 (粒剤)_水 稲_育苗箱 (育苗箱)							15.8	27.2	39.6	1.8	

1): AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL (mg/kg体重/日) \times 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL (mg/kg体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1.1. 登録番号23475：パイゲットフェルテラ粒剤（クロラントラニプロール0.75%・チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23475
	種類・名称	クロラントラニプロール・チアジニル粒剤(パイゲットフェルテラ粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12.0 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)		2)	
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/緑化期～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植3日前～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	
3	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)							31.7	54.3	79.2	3.6	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 2. 登録番号23605：OATブイゲットグランドオンコル粒剤（ベンフラカルブ8.0%・チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23605
	種類・名称	ベンフラカルブ・チアジニル粒剤 (OATブイゲットグランドオンコル粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり							備考			
					調製時		散布時			反復	急性		%AOEL	%AAOEL	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)		1)	2)	
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植前3日~移植当日/本剤の所定量を育苗箱の苗の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)	マスク1			マスク1			30.7	52.6	76.7	3.5	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/本剤の所定量を育苗箱の苗の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)	マスク1			マスク1			30.7	52.6	76.7	3.5	

¹⁾: AOEL占有率 = 反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

²⁾: AAOEL占有率 = 急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1.3. 登録番号23666：ブイグットパディート粒剤（シアントラニプロール0.75%・チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23666
	種類・名称	シアントラニプロール・チアジニル粒剤(ブイグットパディート粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考			
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)	2)
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/緑化期～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植3日前～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
3	稲	1 kg/10a/移植時/側条施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
4	直播水稻	1 kg/10a/は種時/は種同時施薬機を用いて土中施用する。/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL(mg/kg 体重/日) \times 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL(mg/kg 体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1.4. 登録番号23751：アブライパディート粒剤（シアントラニプロール0.75%・チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23751
	種類・名称	シアントラニプロール・チアジニル粒剤（アブライパディート粒剤）
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考			
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)	2)
1	稲（箱育苗）	50 g/箱/は種前/本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。/3回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						31.7	54.3	79.2	3.6	
2	稲（箱育苗）	50 g/箱/は種時覆土前/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						31.7	54.3	79.2	3.6	

¹⁾: AOEL占有率 = 反復暴露量 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000 ($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL (mg/kg 体重/日) \times 100

²⁾: AAOEL占有率 = 急性暴露量 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000 ($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL (mg/kg 体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

15. 登録番号23990：ブイゲットバイソン粒剤（チアクロプリド1.0%・チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23990
	種類・名称	チアクロプリド・チアジニル粒剤(ブイゲットバイソン粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考			
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)	2)
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/緑化期～移植当日/育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
2	稲	1 kg/10a/移植時/側条施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

¹⁾: AOEL占有率 = 反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

²⁾: AAOEL占有率 = 急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

16. 登録番号24135：ブイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤（クロラントラニプロール0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・チアジニル6.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24135
	種類・名称	クロラントラニプロール・トリフルメゾピリム・チアジニル粒剤(ブイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	6 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考			
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)				($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/緑化期～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						15.8	27.2	39.6	1.8	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植3日前～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						15.8	27.2	39.6	1.8	
3	稲	1 kg/10a/移植時/側条施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL(mg/kg体重/日) \times 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL(mg/kg体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1.7. 登録番号24233：ブイゲットハコレンジャーL粒剤、登録番号24356：ハコガード粒剤（クロラントラニプロール0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・チアジニル6.0%・チフルザミド3.0粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24233
	種類・名称	クロラントラニプロール・トリフルメゾピリム・チアジニル・チフルザミド粒剤(ブイゲットハコレンジャーL粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	6 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考			
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)				($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)
1	稲(箱育苗)	50g/箱/緑化期～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						15.8	27.2	39.6	1.8	
2	稲(箱育苗)	50g/箱/移植3日前～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						15.8	27.2	39.6	1.8	
3	稲	1kg/10a/移植時/側条施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL(mg/kg体重/日) \times 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL(mg/kg体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

18. 登録番号24711：ブイグットパディートフロアブル（シアントラニプロール1.87%・チアジニル30.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	24711
	種類・名称	シアントラニプロール・チアジニル水和剤(ブイグットパディートフロアブル)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	30 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:液体/散布時:液体	
⑥ 調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液	25	50

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり							備考		
					調製時		散布時			反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)		1)	2)
1	稲(箱育苗)	25倍, 0.5 L/箱/移植3日前~移植当日/灌注/3回	25	液剤_水稲_育苗箱(育苗箱)		不浸透性手袋			不浸透性手袋	28.4	48.7	71	3.2	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

19. 登録番号24712：リョーガパディート粒剤（シアントラニプロール0.75%・チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24712
	種類・名称	シアントラニプロール・チアジニル粒剤(リョーガパディート粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考			
					調製時		散布時		反復 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)		%AOEL (1)	%AAOEL (2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/は種前/本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/は種時(覆土前)~移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
3	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
4	稲	1 kg/10a/移植時/側条施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL(mg/kg体重/日) \times 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL(mg/kg体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

20. 登録番号24715：ブイゲットパラタスL粒剤（スピネトラム0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・チアジニル6.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24715
	種類・名称	スピネトラム・トリフルメゾピリム・チアジニル粒剤 (ブイゲットパラタスL粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	6 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考			
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)	2)
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/緑化期~移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水 稲_育苗箱(育苗箱)						15.8	27.2	39.6	1.8	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水 稲_育苗箱(育苗箱)						15.8	27.2	39.6	1.8	
3	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水 稲_育苗箱(育苗箱)						15.8	27.2	39.6	1.8	

1): AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL(mg/kg体重/日) \times 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL(mg/kg体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2 1. 登録番号24718：リョーガエザルタ粒剤（スピネトラム0.75%・チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24718
	種類・名称	スピネトラム・チアジニル粒剤(リョーガエザルタ粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考			
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)	2)
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/は種前/本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/は種時(覆土前)~移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
3	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
4	稲	1 kg/10a/移植時/側条施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL(mg/kg体重/日) \times 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL(mg/kg体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2.2. 登録番号24719：リョーガフェルテラ粒剤（クロラントラニプロール0.75%・チアジニル12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24719
	種類・名称	クロラントラニプロール・チアジニル粒剤(リョーガフェルテラ粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考			
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)	2)
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/は種前/本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/は種時(覆土前)~移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
3	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)						31.7	54.3	79.2	3.6	
4	稲	1 kg/10a/移植時/側条施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AOEL(mg/kg体重/日) \times 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) \div 1000($\mu\text{g/mg}$) \div AAOEL(mg/kg体重) \times 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

23. 登録番号24720：ブイゲットバイソンE V粒剤（チアクロプリド1.0%・チアジニル12.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24720
	種類・名称	チアクロプリド・チアジニル・ペンフルフェン粒剤(ブイゲットバイソンE V粒剤)
② 評価対象有効成分	チアジニル	
③-1 AOEL	0.04 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	1.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL (1)	%AAOEL (2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	稲(箱育苗)	50 g/箱/緑化期～移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)		不浸透性手袋	不浸透性防護服	マスク1	不浸透性手袋	2.9	4.9	7.1	0.3	
2	稲(箱育苗)	50 g/箱/移植当日/本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。/3回	1	固形剤(粒剤)_水稲_育苗箱(育苗箱)		不浸透性手袋	不浸透性防護服	マスク1	不浸透性手袋	2.9	4.9	7.1	0.3	
3	稲	1 kg/10a/移植時/側条施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								散布時: 農薬用マスク、不浸透性防護服	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000($\mu\text{g/mg}$) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。